

姶良市農業委員会農業委員候補者の推薦及び応募状況（最終公表）

【一般募集】

No.	一般募集（応募者）								応募理由
	氏名	性別	年齢	職業	経歴	農業経営の状況	認定農業者	農地利用最適化推進委員への応募・推薦	
1	鶴 信光	男	78	行政書士	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和45年4月鹿児島県警察 警察官を拝命 ・平成20年3月鹿児島県警察を定年退職 ・平成20年5月鹿児島県行政書士会所属の行政書士として開業 			無	小生は、農家で生まれ育ち父親は県内の某市の農業委員を務めたことから、農業を取り巻く実情は熟知しているものと思っています。また、平成20年5月に行政書士として稼働し農地法の許可申請業務を取り扱ってきました（現在は許可申請業務、取り扱っていません）ので、農村の実情も熟知しているものと思っています。これらの経験を活かして、農地法の各種許可申請に対する適正な許可業務及び耕作放棄（遊休地）の発生防止や解消等に微力ながら尽力して農業委員会の業務遂行に貢献したいと考えて応募する次第です。
2	内村 英行	男	75	主夫	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和49年鹿児島市役所に就職 ・平成23年定年退職後に社会福祉士を取得 ・臨時職で鹿児島社会福祉協議会、地域包括支援センターに就職 ・令和7年鹿児島県中央児童相談所を退職（臨時職） 	水田 22 a (休耕中) 畑 (野菜・果樹) 5 a 農業従事日数 月2日程度 見回り、軽作業	無	鹿児島市では一貫して農林行政に従事。農政部門の基本目標「都市型農業の振興と地域の活性」を掲げ、また、平成16年の周辺5町との合併に伴い土地利用型農業や茶・果樹の特産品の振興の旗振り役で農家の指導に当たってきました。退職前の2年間は農業委員会事務局で農業委員と一緒に地域農業振興に従事することができました。今回で2回目の応募になりますが、なんとか自分が培った農業に関する経験・知見を姶良市の農政に生かす道はないのかなど模索する日々が続いております。チャンスを頂ければ全力で職務を担う覚悟であります。なにとぞよろしくお願いします。	
3	宮部 芳照	男	85	塾講師	<ul style="list-style-type: none"> ・S41～H18 鹿児島大学農学部で農業機械や農業システム、農業生産管理の教育・研究 ・H4～H18 日本農作業学会評議員・九州支部長 ・H5～H9 農業生産管理学会評議員 ・H6～H16 NPOネイチャーリングプロジェクト理事 ・H18～現在 鹿児島県農業共済組合連合会損害評価委員・農業機械部会長 ・H20～H21 姉良町有機農業推進委員会委員 ・H22～H25 かごしま有機農業支援センター講師（姶良市） ・H25～R5 姉良市環境審議会委員 ・R1～R3 鹿児島食育推進委員会委員 ・H28～現在 鹿児島県環境審議会委員 	野菜 10 a (姶良市) 60日 果樹 (枇杷 その他) 20 a (指宿市) 60日	有(姶良)	担い手への農地集積・集約化などの進展により、農作業の効率化、生産性向上が進みつつあるが、その中で、特に若手の担い手農家の確保や中山間地域の遊休農地・耕作放棄地および鳥獣被害などの拡大防止は喫緊の課題である。特に、近年の農業資材の高騰は農業経営を直撃している。このような状況下で、農地利用の最適化や高度利用による生産コストの低減、農産物の適正価格の形成、農家の安定した所得向上と持続可能な農業を次世代に残すことは、我々世代の重要な責務であると考えている。 なお、今後の「農業のあり方」について、小生の「時論」が南日本新聞に掲載されていますので、ご参考になれば誠に有難いです。例えば（R4.10/24食料自給率向上への道筋は、R5.5/29食と農の国民的議論を、R5.9/18AIを駆使した農業発展を、R6.10/2なぜ増えぬ新規就農者、R7.5/5令和のコメ騒動が教えるもの、R7.9/29止まらない限界集落の増加、大切な食料供給機能の維持拡大を）など	
4	村岡 秋生	男	76	農業	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和43年9月鹿児島運転支所「国鉄」臨時職員として入社 ・昭和45年3月神戸森建築設計事務所入社 ・昭和50年3月かごしま南風病院入社 ・昭和51年3月東京向島郵便局入局 ・平成22年3月鹿児島中央郵便局退職 	耕作面積 2反 作目 野菜・果物 農業従事日数 200日	有(姶良)	両親が農業従事者で馬、豚、牛を飼い肥費を田畠に入れて果物・野菜を狭い開墾した土地でつくり家族で手伝っていた。私は赤ん坊の時から父の手造りの草刈かごに入れられてそれを見て育った。私は東京で埼玉越谷市に住んでから生活のたしに又楽しみに農家さんより20坪借りて無農薬野菜づくりを始めた。田舎に転勤となるころには100坪になっていた。父を手伝いながら、かごしま有機農業技術養成科一期生となり本格的に学習を続け終了して、現在、2反ほど野菜、果物をつくり楽しみながら自給自足生活をめざしている。農業人口減少に心痛めている。私自身も年を取り農業のあり方を考える日々である。若い人に自分のつくった野菜、果物がいかにおいしいか伝えたい。推進委員となり、なお一層農業の勉強をしたいのである。	
5	山之口 大八	男	65	アルバイト	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和57年4月民間土木コンサルタント（測量設計）7年7月 ・平成元年11月大浦町役場入庁経済課 ・平成17年11月南さつま市役所大浦支所農林課 ・平成18年4月南さつま市役所坊津支所農林振興課 ・平成19年4月南さつま市役所建設部建設整備課 ・平成22年4月南さつま市役所産業おこし部農地整備課 ・平成23年4月南さつま市役所産業おこし部農林振興課 ・平成29年4月南さつま市役所建設部建設維持課 ・令和2年3月南さつま市役所定年退職 ・令和4年12月(株)ホウセイ技研 非常勤職員 		無	豊かな自然環境、利便性、地理的条件も整った姶良市において、現在も都市化が進んでいます。一方で総世帯の僅か4%に満たない農家で農業を営み、農地の8割以上を占める水田、散在する畠地など、多面的機能を有する農地保全を支えています。この現状を踏まえ、長年農村地域に在住し、農村整備に携わってきた経験を生かしたいと思います。営農経験が豊かな他委員さんとコミュニケーションを図り、農地の保全、土地利用の適正化など、健全な農業の発展の一助となればと応募しました。	